

# 10の指標にみる福島県の復興 Ver. 5

平成26年11月4日

## ◎ 人口に関する指標

NEW!

### 1 総人口(10月1日現在)

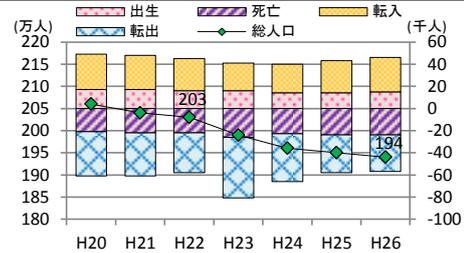
※出典：「福島県の推計人口(福島県現住人口調査)」

東日本大震災(以下「震災」という)により平成23年は大きく減少したが、その後は次第に減少幅が緩やかになっている。直近1年間の動きをみると、対前年比で出生及び転入は増加、死亡及び転出は減少となっている。

対H22年比 指数(H22=100)



対前年比0.56%の減。  
(出生2.2%の増、転入5.0%の増、  
死亡1.0%の減、転出5.6%の減。)



NEW!

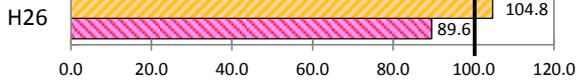
### 2 社会動態

(生産年齢人口及び年少人口の前10月1日～現9月30日の動態)

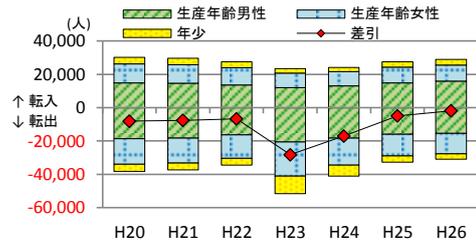
※出典：「福島県の推計人口(福島県現住人口調査)」

震災時には、特に年少及び生産年齢女性の転出が大幅増となり、大きく転出超過となったが、平成25年までにほぼ震災前の水準まで回復した。直近1年間の動きをみると、生産年齢男性の転入超過の傾向が目立っている。

対H22年比 指数(H22=100)



転入：対前年比4.7%の増。3年連続のプラス。  
転出：対前年比5.7%の減。3年連続のマイナス。

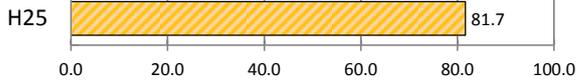


### 3 里帰り出産件数(県内15医療機関)

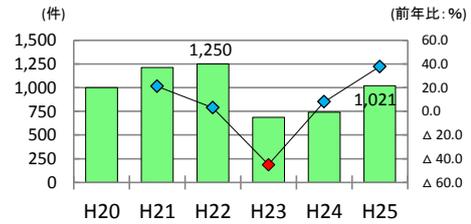
※出典：福島県産婦人科医学会業務資料

震災の影響により平成23年は半数近くまで減少したが、平成25年にはほぼ震災前の件数まで戻っており、県内で出産することへの不安感が払拭されつつあるものと見られる。  
(※県外避難者が出産のために一時帰還した場合を含む。)

対H22年比 指数(H22=100)



対前年比37.8%の増。2年連続のプラス。



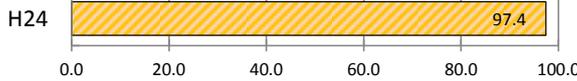
## ◎ 経済に関する指標

### 4 県内総生産(名目)

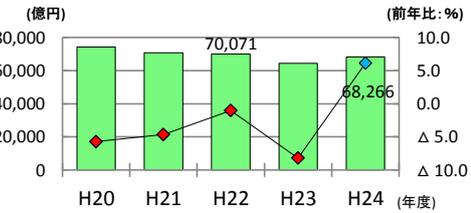
※出典：「福島県県民経済計算」

震災後の低調な生産活動から持ち直しの動きが続いたことや、復旧工事が本格化したことなどから、製造業や建設業で総生産が増加し、6年ぶりに増加に転じた。

対H22年度比 指数(H22=100)



対前年比6.1%の増。H18年以来6年ぶりのプラス。

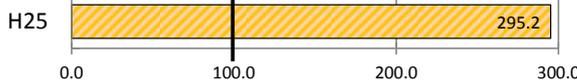


### 5 有効求人倍率

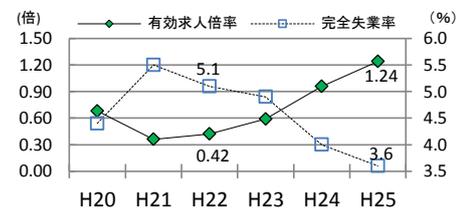
※出典：厚生労働省「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」

平成21年から上昇傾向にあり、震災後は業種毎の求人倍率のばらつきがより大きくなったものの、全体では、平成25年には1倍を超えている。なお、それに連動して完全失業率は低下している。

対H22年比 指数(H22=100)



対前年比0.28ポイントの増。4年連続のプラス。  
(保安:7.05倍、建設・採掘:3.51倍、事務:0.38倍、生産工程:0.69倍)



<h3>6 工場立地件数</h3> <p>※出典：県企業立地課業務資料</p>	<p>対前年比±0%。</p>
<p>平成21年はリーマンショックの影響で大きく落ち込んだが、その後回復基調となり、平成24年には震災後の復興需要や補助制度の創設により大幅な増となった。なお、立地件数のうち同補助制度の利活用件数は、平成24年が65件、平成25年が82件となっている。</p> <p>対H22年比 指数(H22=100)</p> <p>H25 242.9</p>	<p>(件) ※網掛けは補助制度利用による立地件数 (前年比:%)</p> <p>H20 H21 H22 H23 H24 H25</p>
<h3>7 太陽光発電購入容量</h3> <p>(<small>関東北電力との電力購入契約の契約容量</small>)</p> <p>※出典：県エネルギー課業務資料</p>	<p>対前年比127.3%の増。5年連続のプラス。</p>
<p>震災以前から増加傾向にあったが、特に震災後は、再生可能エネルギーの推進が復興に向けた重点プロジェクトの一つに位置付けられ、助成制度の拡充等により大きな伸びとなっている。また、設備設置の低価格化が進み、契約1件あたりの容量も増えてきている。</p> <p>対H22年比 指数(H22=100)</p> <p>H25 422.6</p>	<p>(kW) (前年比:%)</p> <p>H20 H21 H22 H23 H24 H25(年度)</p>
<h3>8 観光客入込数</h3> <p>※出典：県観光交流課「観光客入込状況」</p>	<p>対前年比8.7%の増。2年連続のプラス。</p>
<p>震災直後は県内全域で入込数が減少したが、大河ドラマ「八重の桜」などを好機として積極的に観光誘客に取り組んだ結果、平成25年は県内7方部全ての地域で前年を上回った。特に会津地方は、対前年比13.3%と伸び率が大きかった。</p> <p>対H22年比 指数(H22=100)</p> <p>H25 84.5</p>	<p>(千人) (前年比:%)</p> <p>H20 H21 H22 H23 H24 H25</p>
<h3>9 教育旅行宿泊延べ人数</h3> <p>※出典：県観光交流課「福島県教育旅行入込調査」</p>	<p>対前年比32.7%の増。2年連続のプラス。</p>
<p>震災の影響により平成23年度は大きく落ち込んだが、積極的な情報発信、誘致活動や風評払拭のための活動などの取り組みにより、徐々にではあるが回復傾向が窺える。</p> <p>対H22年度比 指数(H22=100)</p> <p>H25 47.3</p>	<p>(人) (前年比:%)</p> <p>H20 H21 H22 H23 H24 H25 (年度)</p>
<p><b>NEW!</b> <h3>10 高校卒業予定者の就職内定状況</h3></p> <p>※出典：県雇用労政課業務資料</p>	<p>対前年比24.1%の増。5年連続のプラス。</p>
<p>来春高校卒業予定者の9月末時点における就職内定率は、53.5%と過去10年で最高の水準となった。このうち、県内企業への就職割合（県内留保率）は80.0%となり、震災以降3年連続で増加している。</p> <p>対H22年度比 指数(H22=100)</p> <p>H26 167.7</p>	<p>年度末卒業予定者の9月末時点における就職内定率 (前年比:%)</p> <p>H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 (年度)</p>

※ 各指標の詳細なデータについては、出典元の各統計（ふくしま統計情報BOX等）をご覧ください。